

もう一つの臓器、腸内細菌叢の機能に迫る

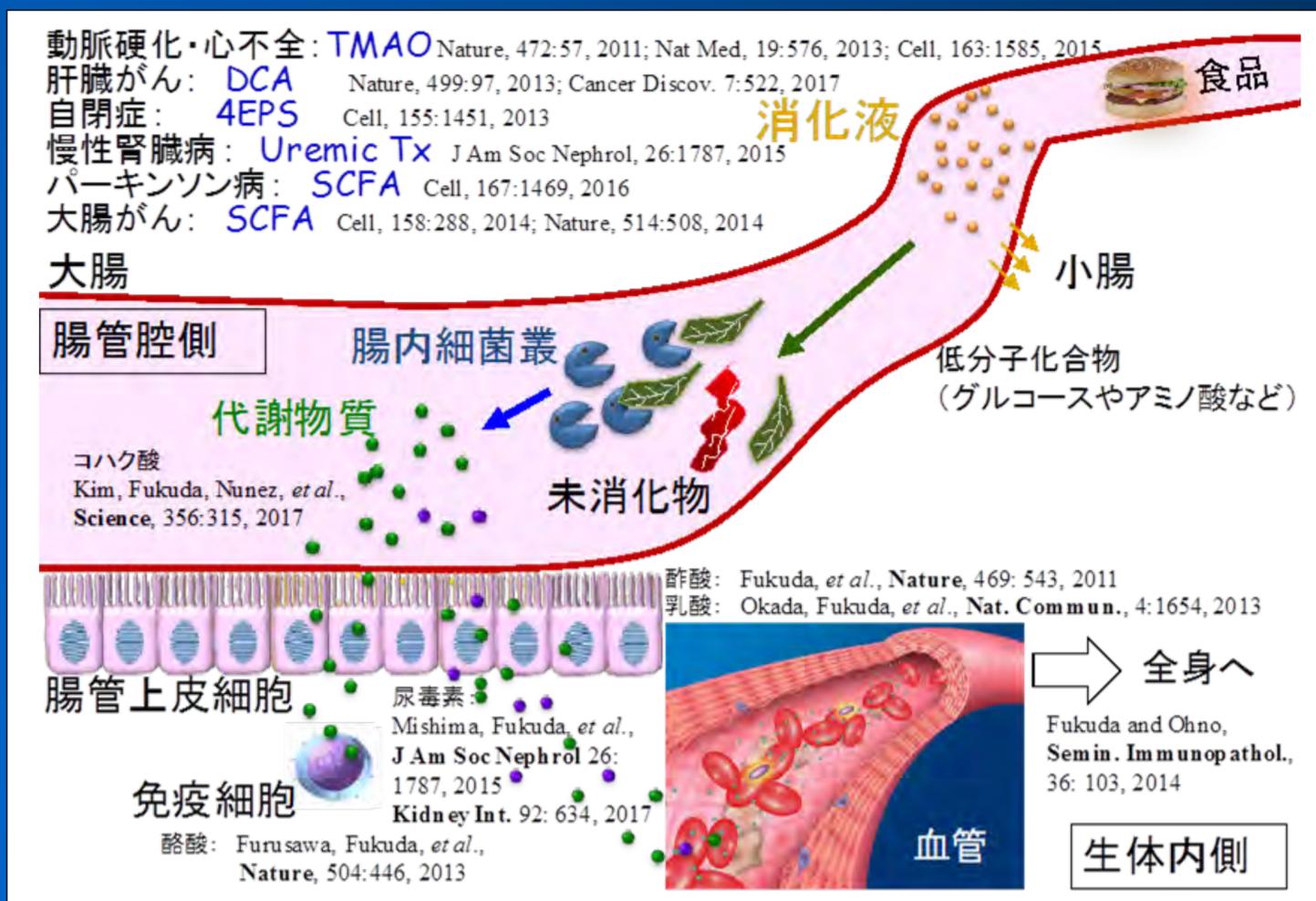
福田真嗣 特任准教授

慶應義塾大学先端生命科学研究所・JSTさきがけ・
神奈川県立産業技術総合研究所・株式会社メタジェン

(世話人: 水沼 正樹 准教授
大学院先端物質科学研究科
分子生命機能科学専攻)

《概要》

ヒトの腸内には数百種類以上でおよそ100兆個にもおよぶとされる腸内細菌が生息しており、これらの集団(腸内細菌叢と呼ぶ)は宿主の腸管細胞群と密接に相互作用することで、複雑な腸内生態系を形成している。腸内細菌叢はヒトの健康維持に重要であるが、そのバランスが崩れると様々な疾患につながることから、腸内細菌叢は異種生物で構成される「もう一つの臓器」と捉えることもできる。われわれはこれまでに、腸内細菌叢の遺伝子情報と代謝動態に着目したメタボロゲノム解析技術を構築し、腸内細菌叢から産生される様々な代謝物質が生体恒常性維持に重要な役割を担うことを明らかにしてきた。本講演では、「腸内環境に基づく個別化医療・ヘルスケア」をキーワードに、個々人の腸内細菌叢の適切な制御による新たな健康維持、疾患予防・治療基盤技術の創出に向けたわれわれの取り組みについて紹介する。



腸内細菌叢由来代謝物質がもたらす生体恒常性

※本セミナーは5研究科共同セミナーです。

開催日時: 平成 30 年 5 月 25 日(金) 16:00-17:00

会場: 広島大学先端科学総合研究棟 3F 302S会議室

お問い合わせ先

水沼 正樹: E-mail mmizu49120@hiroshima-u.ac.jp TEL 082-424-7765